

『花を訪ねて： バラ』

## 横浜山の手公園散策報告(2024年05月05日(日・祝))

横浜市の山の手の「山手本通り」沿いに、大正から昭和初期に建てられた7棟の洋館が並び、何れも“国重文”、“横浜市指定歴史建物”になっている。更に“イタリア山”、“フランス山”、“アメリカ山”という面白そうな場所があるので、横浜市の花:バラの時期に出かけることをご提案して実現した。

当日は9時に根岸線石川町駅で待ち合わせることにした。参加された浮津さん、柳澤さんは少し早く到着したので、8時50分に出発した。直ぐに「地蔵坂」へ左折して少し登ると階段が現れた、今日の最大の“登り坂”だったが、10分足らずで「横浜イタリア山庭園」の裏門に着いた。丁度係員が門扉を開いてくれたところだった。

園内に入りそのまま奥へ進むと“イタリア式庭園”(幾何学式整形庭園)に出る。崖の上であり前方には横浜の中心市街が望める。庭の中央には長さ20m位の噴水のある水路があり、庭の一番奥に高さ20m位の樹形の整った糸杉が2本立っていたので、仕事をしていた植木屋さんに訊いたら、「特に手入れはしていない」とのことだった(否高すぎて手入れができない!)。外側から見た本屋:「外交官の家」は旧古河邸に似ていた。

「外交官の家」は開館時刻が9時30分なので、既に20人位の人が開館を待っていた、9時30分に入館する。前庭のバラ園には種々のバラの花が満開の花を付けていた。明治政府の外交官:内田氏の渋谷の邸宅を移設したもので、「国指定重要文化財」である。今日は丁度『端午の節句』で、応接室や食堂などには種々の花、菖蒲、鎧・兜などで見事に飾られていた。内部を見学後外へ出る、庭には次に「ブラフ18番館」(“ブラフ”は“崖”の意味)へ向かう。こちらでも「端午の節句」の飾り付けが行われていた。

9時55分、表通りの「山手本通り」へ出る、正面に「カトリック山手教会」、左手に「湘南医療大学」の白いビルが建ち、やがて左手に「フェリス女学院・中高校」だ。この道はちょうど魚の背骨のようで、道の両側はずっと下っている。「元町公園」の南端に着いて、「ベーリック・ホール」に入る。ここは英人貿易商ベーリックの住居でスペイン様式だ。邸内に入るとやはり「端午の節句」の飾り付けが立派だ。お隣の「エリスマン邸」は「近代建築の父:A.レーモンド」が設計した生糸貿易商エリスマン氏の私邸である。ここでも「端午の節句」の飾り付けが出迎えてくれた。道の向い側の「山手234番館」に入る。ここは外国人向け共同住宅として建てられたが、現在は2階を展示会などに貸しており、今日は写真展をやっていた。

「山手本通り」の左側は「元町公園」で隣は「横浜外国人墓地」(神奈川50選)で道路から見学する。道路右側には「山手聖公会」、「山手資料館」などが続く。道は“Y字路”になっており正面に「ブラフ99ガーデン」と「横浜地方气象台」の建物が見えた。右手に曲がり、11時に「港の見える丘公園」に到着、まず「横浜市イギリス館」に向かう。館の前がバラ園になっていて、種々のバラが満開に咲いていた。「横浜市イギリス館」の内部を見学する、重厚さを加味した近代的な建物で、1937年に英国総領事公邸として建築された。ここでも「端午の節句」の飾り付けがあった。裏手に周るとバラ園と噴水広場がある。その向うに「山手111番館」があるがパスした。

中央に噴水を配したバラの「沈床花壇」を抜けて「港の見える丘公園」のテラスへ向かう、横浜市の中心部やマリンタワー、ベイブリッジ、倉庫群、手前のアパート群などが望める。11時30分、公園を出て樹木の茂った「フランス山」を経て、階段を下り、元町中華街駅に着いた。横浜駅へ向かい、12時10分に「ポートサイド」にある「サイゼリア」に着いた。幸い直ぐに入れた。昼食・歓談した後、13時40分に店を出て横浜駅で流れ解散した。

以上 陽田



『外交官の家』(国重文)



『外交官の家』の食堂の「端午の節句」の飾り付け



イタリア式庭園の噴水路と糸杉



『ブラフ 18 番館』



『ブラフ 18 番館』の食堂の飾り付け



『ベーリック・ホール』



『ベーリック・ホール』の応接室の飾り付け



『エリスマン邸』



『山手 234 番館』



『横浜市イギリス館』とバラ園

